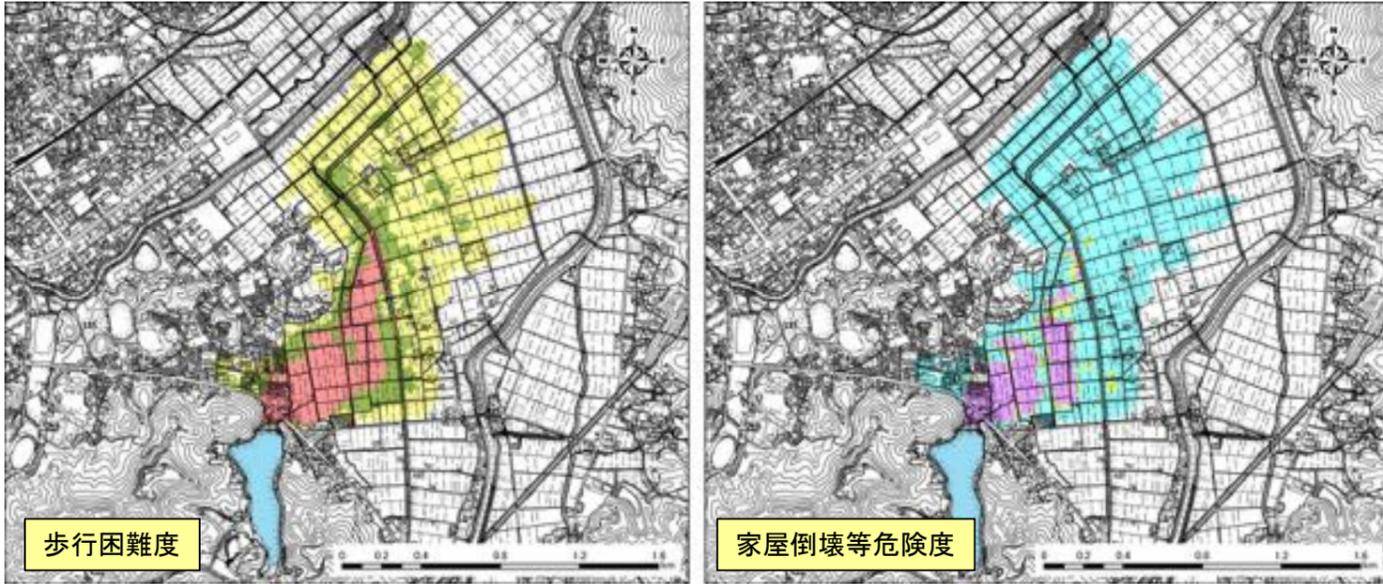
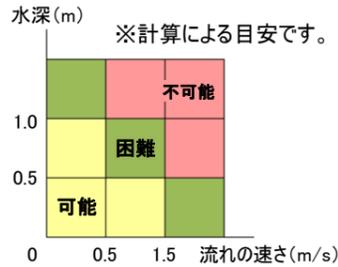


水深が浅い場合でも水の流が速いと危険です！

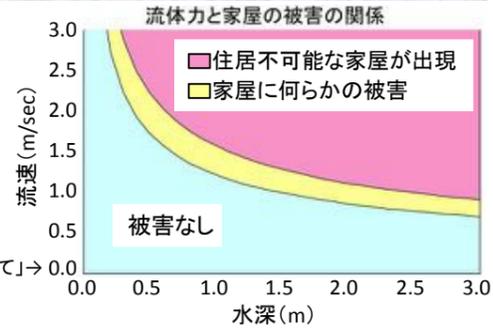


浸水中の歩行避難困難度



浸水し始めたら無理な避難をしない
 歩いて避難できる水深の目安は、ひざくらいまでです。また、水深が浅くても流が速い場合は危険です。浸水し始めたら、近くの高所へ一時的に避難し、流が治まるのを待ちましょう。

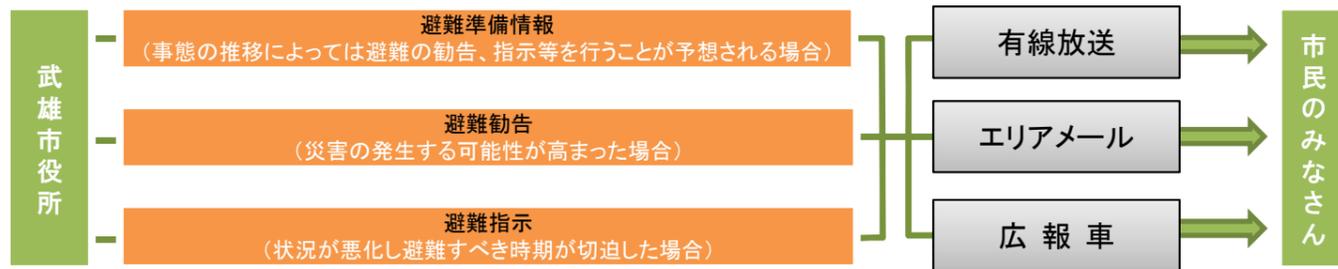
出典「洪水氾濫の数値計算および家屋被害について」→ (佐藤他、第37回水利講演会論文集 1989.2)



避難に備え早めの情報収集を行いましょう。

情報源	情報の種類	ウェブサイトアドレス
たけおポータル	県内の防災関連情報や関連サイトなど	http://www.city.takeo.lg.jp/bosai/
防災・減災さが	県内の防災関連情報や関連サイトなど	http://www.pref.saga.lg.jp/bousai/
リアルタイム川の防災情報	全国の雨量情報や水防警報など	http://www.river.go.jp/
気象庁	全国の気象情報や地震情報など	http://www.jma.go.jp/jma/index.html

市役所から呼びかける避難情報



気象状況などにより避難情報が聞こえない場合や、伝達が間に合わない場合もありますので、身の危険を感じたら早めに避難して下さい。

【ため池ハザードマップに関するご意見・ご質問は】

武雄市役所 TEL (0954)23-9335 (農林課) ホームページ <http://www.city.takeo.lg.jp/>
 〒843-8639 佐賀県武雄市武雄町昭和12番地10

武雄市ため池ハザードマップ (池ノ内池)

作成：平成30年3月

この「ため池ハザードマップ」は、池ノ内池が決壊した場合に想定される浸水区域や水深、および避難に役立つ情報を取りまとめたものです。ため池が決壊するおそれのある場合または決壊した場合に、迅速かつ安全に避難するために役立ててください。



ため池災害は次の特徴があります。

- 地震時は決壊の予兆がわからない場合があります。
- 決壊すると大量の水が短時間で押し寄せる可能性があります。
- ため池の下流では大きな被害になることもあります。

【池ノ内池の現状】

この池は、農業用水を確保することを目的として、谷をせき止めて築造されました(築造年代は不明)。現在ではその豊富な貯水量と自然環境によって、利水はもとより動植物の生息・生育環境として貴重な役割も担っています。しかし、近年では施設の老朽化もみられ、施設の耐用能力を超える大雨や大規模な地震が発生した場合、堤防が損傷を受け決壊に至る可能性もあります。万が一ため池が決壊した場合、池の下流には一度に大量の水が短時間で押し寄せる可能性があります。現在は洪水吐から2.0m水位を下げ、決壊の危険性を低減させる管理をしています。

ため池ハザードマップの活用方法 (急な事態へ備えましょう)

【1】想定される浸水区域や深さなどをチェックしましょう。

- ・危険度やはん濫水の到達時間に応じた避難を考えましょう。
- ・災害時の様々な事態をイメージしましょう。



【4】日頃から家族や地域で話し合いましょう。

- ・災害時に協力し合えるよう、日頃から家族や地域で役割などを話し合いましょう。
- ・避難の際に支援が必要な要援護者への情報伝達や補助内容を決めておきましょう。



【2】避難場所を決めておきましょう。

- ・危険度やはん濫水の到達時間より、どこへ避難するかを決めておきましょう。
- ・浸水深が3mを超える区域は、緊急避難できる身近な場所も探しておきましょう。
- ・家族の連絡先を確認しておきましょう。



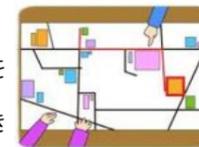
【5】防災情報の入手先を確認しておきましょう。

- ・ため池の堤防が被災すると、短時間で決壊に至る可能性がありますので、日頃から防災情報がどこで入手できるかを確認しておきましょう。



【3】避難場所までの避難経路を考えましょう。

- ・避難場所まで実際に歩いて、移動時間を確認しておきましょう。
- ・避難途中で浸水した場合に緊急避難できる場所を探しておきましょう。



【6】市が公表している他のハザードマップもご覧ください。

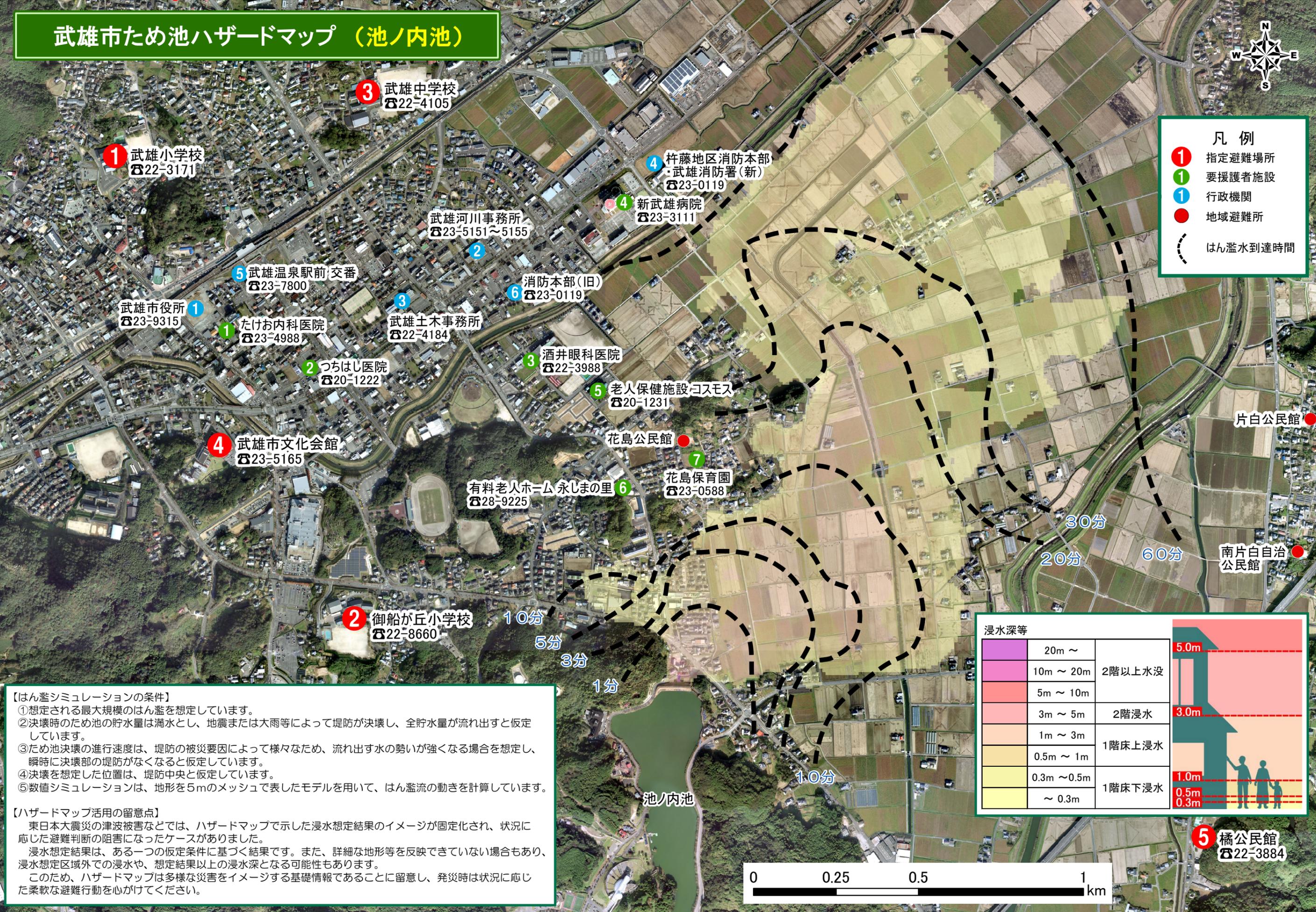
- ・武雄市ハザードマップには、大雨に伴う河川のはん濫や、その避難に関する情報を記載しています。このマップと併せて活用し、急な事態へ備えましょう。



武雄市ため池ハザードマップ (池ノ内池)



- 凡例**
- ① 指定避難場所
 - ① 要援護者施設
 - ① 行政機関
 - 地域避難所
 - はん溢水到達時間



【はん溢シミュレーションの条件】

- ① 想定される最大規模のはん溢を想定しています。
- ② 決壊時のため池の貯水量は満水とし、地震または大雨等によって堤防が決壊し、全貯水量が流れ出すと仮定しています。
- ③ ため池決壊の進行速度は、堤防の被災要因によって様々なため、流れ出す水の勢いが強くなる場合を想定し、瞬時に決壊部の堤防がなくなると仮定しています。
- ④ 決壊を想定した位置は、堤防中央と仮定しています。
- ⑤ 数値シミュレーションは、地形を5mのメッシュで表したモデルを用いて、はん溢流の動きを計算しています。

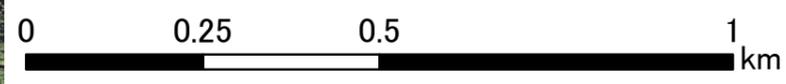
【ハザードマップ活用の留意点】

東日本大震災の津波被害などでは、ハザードマップで示した浸水想定結果のイメージが固定化され、状況に応じた避難判断の阻害になったケースがありました。

浸水想定結果は、ある一つの仮定条件に基づく結果です。また、詳細な地形等を反映できていない場合もあり、浸水想定区域外での浸水や、想定結果以上の浸水深となる可能性もあります。

このため、ハザードマップは多様な災害をイメージする基礎情報であることに留意し、発災時は状況に応じた柔軟な避難行動を心がけてください。

浸水深等		
20m ~		5.0m
10m ~ 20m	2階以上水没	3.0m
5m ~ 10m	2階浸水	
3m ~ 5m	1階床上浸水	1.0m
1m ~ 3m	1階床上浸水	
0.5m ~ 1m	1階床上浸水	0.5m
0.3m ~ 0.5m	1階床上浸水	
~ 0.3m	1階床下浸水	0.3m



● 5 橋公民館
☎22-3884